籠神社（宮津市）／**「記紀」・海部氏系図、『先代旧事本紀』尾張氏系譜の合成系図**＝本書の王系譜

本宮に主祭神の彦火明命、相殿に豊受大神・天照大神・海神・天水分神を祀る。同時に、日本最古の海部氏系図（国宝）を伝える。眞名井原に鎮座する奥宮（眞名井神社）は神代の鎮座地とされ、豊受大神と天照大神を祀ってきた。垂仁天皇の御世、眞名井原の匏宮（与佐宮、与謝宮）に鎮座する天照皇大神が伊勢国五十鈴の川上（内宮の地）に遷座したという。雄略期になると、眞名井神社の豊受大神が伊勢山田原の豊受大神宮（外宮）に勧請された経緯から、元伊勢と呼ばれてきた。

海部氏系図　本系図　始祖彦火明（天火明）―○―○―三世孫倭宿禰（珍彦）―武振熊（神功将軍）

同　　勘注系図　始祖彦火明（火明饒速日）―天香語山―天村雲―天忍人（倭宿禰）―

『先代旧事本紀』尾張氏系譜　饒速日命亦名天火明命―児天香語山命―孫天村雲命―天忍人

同書は、天香語山が天照大神のひ孫にあたる饒速日と天道姫の児、高倉下とする。

同国造本紀、「珍彦は火火出見の孫で、神武朝に導士の功によって大倭国造となった」

『但馬故事記』、「饒速日は天道姫と共に真名井原に天降った。姫が産んだ児を天香語山という」

【籠神社の伝承】、「海部宮司家四代目の祖・珍彦は、建国の功労者として倭宿禰の称号を賜った」

「神武紀」、「天皇、（珍彦に対して）功を定め賞を行いたまう。倭の国造とす」

〔鹿児島神宮の石体宮〕、磐余彦が東征計画を練った所とされ、彼にちなむ巨石を御神体として祀る。同時に、お産の神様としても有名だ。それは、神功が石体宮で八幡を産んだからとされる。

〔本書の王系譜〕

「天鹿児山」―天火明（同上）―誉津別（火火出見）―○―倭宿禰（珍彦）―武振熊（神功将軍）

饒速日（皇孫→天孫、天照大神の孫）

……火明饒速日 ― 天香語山（高倉下）― 天村雲

※……養子

天照皇大神（天照大神）―向津姫―忍穂耳―天孫火瓊瓊杵―火照（海幸彦、火明襲名）―火スセリ（海幸彦襲名）―火折（火火出見）―○―磐余彦（神武）

日神の天照大御神　（天孫→皇孫）

仲哀―気比で誕生の長男→気比大神

神功―宇美で誕生の次男→新羅国王

石体宮で誕生の三男八幡→応神